

# すずがも通信 No.2



1980.6.15(月刊)

行徳野鳥観察舎友の会会報

## 巻頭言

### 繁殖期の鳥を守ろう

観察舎前の水路では、カルガモが12羽ものがわいいヒナを連れています。体長12.5センチの小さな鳥、セッカも、驚くほど大きな声を出して、テリトリーを守ろうと必死に飛び回ります。相手が仲間の鳥ならばもちろん、愛鳥家を自認する私たちは、彼らにとって例外なく敵なのです。

鳥たちの繁殖できる自然は、どんどん人間の手で破壊されています。工場、道路の建設だけではなく、人間の繁殖する場である住宅の建設も、この点では同罪です。観察舎の裏手の窪地も、2年前造は草地で、たくさんの大オシキ、セッカが繁殖していましたし、現在汚水処理場の建設が進められている旧丸洗養魚場跡では、バンやヨシエイが繁殖していました。行徳地区の自然は、確実に人間が破壊し続けています。鳥たちは、代々住み慣れたであろう故郷を追われ、今や大半は官内庁の鴨場と保護区とに押し込まれました。保護区は今や鳥たちの「駆け込み寺」なのです。東京湾奥部でここしか繁殖する場所を見出せない鳥もいるほどです。そもそも、保護区などといふものが、人の手で作られるということは、鳥たちにとっては、きわめて悲しいことなのです。

ともあれ、感傷的になってしまふ始まりません。スズメやツバメでも、私たちの真近からは、一羽一羽の鳥の生活を守つてゆくことを、私たちの自然保護の原点としたいのです。

## 行事案内



●早起き観察会 夏休みの早朝行事です。すずしいうちに鳥を見ます。働き者のオオヨシキリ、セツカなどは、もう大忙しだす。7月27日、8月17日の6:00に千鳥橋集合。7:30頃解散です。

●定例観察会 夏の間は暑い期間をさけます。7月6日、20日、8月17日の15:00に集合、17:00解散。アシの上を飛ぶヨシゴイを見ます。

## —観察舎の鳥とわたし—

パクパク、モコモコ、フニョフニョ…私たち仮親はそう呼びました。給餌を待ちきれないパクパク。頭に幼羽を残した気弱いフニョフニョ。どれもかわいいツバメのヒナです。

この季節には、巣から落ちてヒナが、続々と観察舎へ持ち込まれます。既に巣だったヒナは電線で餌を催促しています。飛ぶことも、虫を捕まることも出来ない仮親は、チーズ缶手にはしごをかけて物置の屋根に登ります。物置の上の電線は、ツバメと仮親とが、思案の末に見つけた接点でした。

夏の夕暮れ、一説に歩いていた運生公裕君が、シーツといつて、私の手を引っぱりました。巣立つばかりのツバメの側を、小さくなつて通り抜け、振り返って彼はいいました。「ねえ、カワイイコチャン！」と。

ツバメ一来る時も、帰る時も、爽やかな風が吹き抜けます。

## 行事案内



●夕涼み観察会 観察舎の閉館後、夕涼みをかねて園内に入ります。空には繁殖を終えたムクドリが、千羽単位の群で舞っています。足許には、背の低いアレチノマツヨイグサが黄色い花をつけています。そろそろ、虫の声も聞かれます。シギの声にも耳をかたむけましょう。8月24日、17:00集合。まだ明るい18:30には解散の予定です。

## 保護のコーナー

●UFO島の干拓計画が観察舎の職員と反の会のボランティアの手で行われました。一面のアシをとりのぞき、ジロチドリの繁殖地を保護するというものです。イギリスで成功した例にならったのですが、残念ながら、今年は失敗に終りました。来年に期待しよう。

●水路問題—県の環境部自然保護課から回答があり、具体的な処置については、観察舎と野鳥の会と意見調整をし

終りに近づきました。たまには行徳以外のところへ出かけましょう。行徳とほらんぐ理立地の中に、ポッカリと水面のとりのこされた谷津干潟に行きます。シギ・チドリ類が、秋の渡りの途中でたくさん立寄ります。8月30日、行徳駅に10:00集合。弁当、水筒帽子を忘れないように。担当は、田久保晴寿会員です。

てほしいという二つになりました。現在調整中です。

## ●図書室の閲覧開始—

図書室では、子供向け図書250冊、大人向け図書370冊の整理を終え、閲覧を開始しています。「日本鳥類目録・1974」、清樽幸保「日本鳥類大図鑑」、山階芳磨「日本の鳥類と其生態」のような高額図書や洋書類も含まれています。「野鳥」等の雑誌もあります。ご来館の折、ご利用ください。ただし、館外貸出はできません。



## ジュニアのコナー

● 友の会のジュニア会員たちが、鳥の絵本を作りました。毎日、観察舎で描きためた絵がたまってきたので、製本屋さんに頼んで、1冊の絵本にまとめました。

● ジュニア会員の壁新聞「かいつぶり」は、6号が出来ました。野鳥の解説やら、野鳥クイズやら、にぎやかで楽しい紙面をごらんください。「かいつぶり」は、観察室2階の壁にはってあります。

### 「本主義モラ

#### 絵本=ビアンキ動物記

理論社刊 ¥880

● リューリヤの目がなぜ赤いか知っていますか。リューリヤはかんむりかいつぶりです。「もぐりのリューリヤ」「くちはしくらべ」など、鳥の絵いっぱいのふ話を。ビアンキの風と木と鳥のうたに、耳をかたむけてみましょう。

### ● 観察舎の利用規定の変更

利用規定が次のように変更されました。利用者の方は、ご注意ください。

開館 9:00～17:00

(但し入館は16:50迄)

休館 毎月曜日・国民の祝  
日の翌日・毎月最終  
金曜日(清掃休館)

年末年始 12月30日～1月  
3日は休館。

団体利用 事前に事連絡

● 行徳野鳥観察会だよりと観  
察の手びき(初夏号)が出来  
ました。どちらも素晴らしいパ  
ンフレットです。観察の手び  
きは、観察舎にて配布中です。

### ● 観察舎で見られる鳥――

ヨシブイ、オオヨシキリ、  
セツカ、ゴイサギなど

● 編集後記――「立つ鳥跡を  
燭す上かどうか、ドブヘジ  
氏は原稿を置くやうなや、仙  
台に出張しました。編集局の  
都合で、第2号をお届けする  
のが、大変遅くなりました。  
会員の皆様におわび致します。

すずがも通信No.2

—1980.6.15—

発行人 重谷栄

事務局 鈴木有

編集人 志村英雄・真澄